

[巻頭言]

サイバーサイエンスセンターの改組について

菅沼 拓夫

東北大学サイバーサイエンスセンター長

令和4年1月1日付で、東北大学サイバーサイエンスセンターの研究開発部の構成変更による改組を行いましたので、ご報告させていただきます。

近年、国内外において、研究データを中心に据えてその解析結果に基づき研究プロセスを進める「データ駆動型研究」が、大学における研究方法論の重要な柱として位置づけられてきております。例えば内閣府の「第6期科学技術・イノベーション基本計画」(2021年3月)においては、その具体的な実現方策として、研究データの管理・利活用促進、スマートラボ・AI等を活用した研究の加速と、そのための研究施設・設備・機器の整備・共用、研究DXを進めることによる新たな研究コミュニティ・環境の醸成が必須であるとされています。これまで本センターは、長年に渡り、大規模科学計算システムの利用と研究をサポートする体制を整え、また、その役割を高度化するために全国共同利用・共同研究拠点としてサービスを広く提供しつつ、その高度化に関する研究開発を推進することで、大規模計算科学の多くの研究者の皆様のコミュニティをご支援させていただいてきました。大規模科学計算システムは、データ駆動型研究においてもデータの解析を行うための心臓部に当たる重要な役割を担うことは言うまでもありませんが、その利用を支援する体制を維持しつつ、令和4年度から始まる第4期中期目標・中期計画期間に向けて、データ駆動型で研究を推進する皆様にも本センターのサービスをより安心して便利かつ高度にご利用いただけるようにすることで、さらに幅の広い利用者の皆様方の参加によるコミュニティの拡大・活性化に繋げるべく、センター機能のさらなる充実を検討してきたところです。

以上の検討結果から、このたび新たに、データ駆動型研究の中核となる「データ」に着目し、研究ビッグデータの安全かつ高度な利活用に資する研究部として、データプラットフォーム研究部、情報セキュリティ研究部の2研究部を新設、合わせて、現状に即して既存研究部の役割・名称変更を伴うセンター改組を、令和4年1月1日付で実施いたしました(図1)。本センターは、東北大学大型計算機センターが1969年に設置されて以来、平成13年の情報シナジーセンターへの改組、平成20年のサイバーサイエンスセンターへの発展的改組を経て現在の形となっておりますが、それに次ぐ今回の大きな改組となります。

各研究部の役割に関しては、具体的には、データプラットフォーム研究部では、大規模研究データに対応した高度データプラットフォーム、データレイク等のデータストレージ関連のハード、ソフトに関する研究開発と、研究ビッグデータの効果的な獲得・蓄積・有効利用のためのデータプラットフォームの企画・運用・管理支援を行います。また、情報セキュリティ研究部は、研究データ等の流通や研究データクラウドにおける高度情報セキュリティ技術に関する研究開発と、情報セキュリティ強化システムの企画・運用・管理支援の役割

を担います。加えて、情報通信基盤研究部から名称を変更した情報サービス基盤研究部では、サービスレイヤに注力し、大学DXにおける情報サービス基盤とその高度な利用に関する研究開発と、クラウドサービスを含めた情報サービス基盤および各種情報サービスの企画・運用・管理支援を推進します。さらに、先端情報技術研究部から名称を変更したサイバーフィジカルシステム研究部は、アプリケーション分野としてサイバーフィジカルシステムに着目し、その医療・福祉・介護への応用に関する研究開発と、サイバーフィジカルシステムにおける情報の適正な利用に関する教育・啓蒙活動を進めます。今回はまずは組織の改革からスタートしておりますが、今後、新たなスタッフとともに、センターの関連設備の強化についても積極的に施策を検討していく所存です。

引き続き、新しい組織にて、情報基盤の整備と人材育成に取り組みつつ、本センターが我が国をリードする優れたサービスを提供し、学内外の関係者の方々、特に本センターを利用される皆様のご期待に応えられるよう全力で取り組んでまいりますので、今後ともご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

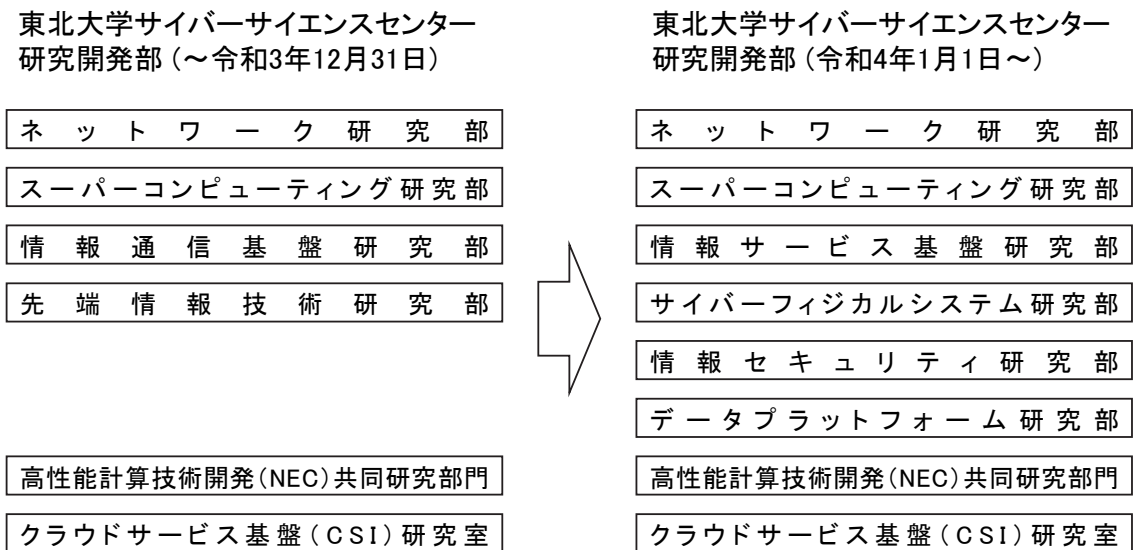


図1 令和4年1月1日付センター改組(研究開発部の組織改編)